

鞍馬の牛若くらま うしわか
(松口月城)まつぐちげつじょう

恩讐おんしゅう 脉脉みやくみやく 心肝しんかんに 徹てつす

鞍馬山くらまやまの 牛若丸うしわかまる

経文きょうもんを 読よまず 韜略たうりやくを 読よむ

鍊磨れんまの 一劍いっけん 天てんに 倚よつて 寒さむし

解説 勇将義経が五条の大橋で武藏坊弁慶を屈伏せせしめたのも、また、後年、壇の浦で八艘飛びの離れ業を演じたのも、すべてこの鞍馬時代の修練の賜と言われている。

語釈 ※恩讐||恩と仇。なさけとらみ。※脉々||途絶えずに力強く続くさま。※心肝||心。心の底。※韜略||兵法。兵略。※鍊磨||鍛え磨きあげること。

通釈 心の底より恩讐は途絶えずに力強く続く、鞍馬山に棲む牛若丸。この牛若丸は与えられて経文より、この先の時代を見据えて、兵法を読破し、また剣法を磨き鍛えている。